

2009年12月1日

報道関係者各位

慶應義塾大学コ・モビリティ社会研究センター  
大日本印刷株式会社  
KDDI 株式会社  
青森市  
青森市中心市街地活性化協議会（まちなかマーケティング市民委員会）

## 青森県青森市の新町商店街において子育て世代を対象とした商店街ツアーを実施 慶應義塾大学「コ・モビリティ社会の創成プロジェクト」の取り組み

慶應義塾大学コ・モビリティ社会研究センター(注 1、以下 慶應義塾)は、同大学の「コ・モビリティ社会の創成プロジェクト」(注 2、の一環として、大日本印刷株式会社(注 3、以下 DNP)、KDDI 株式会社(注 4、以下 KDDI)、と共同で、青森県青森市(注 5、以下青森市) 青森市中心市街地活性化協議会(注 6、以下 青森中活協)の協力のもと、「コミュニティ形成支援」のための子育て商店街ツアーを12月4日に青森市で実施します。

### 1) 背景

中心市街地は、都市における経済の中心であり、同時に最も人々が賑わう場所です。そうした青森市の中心市街地の魅力を高めるために、昨年度、慶應義塾は、青森中活協と協力し、青森市の中心市街地の生活価値の調査分析「まちなかハッピーネス調査:(別紙参照)」を進めてきました。今年度は、分析によって明らかになった生活価値の中で、重要性が高いがニーズへの対応が不十分である、子育て世代を取り巻く生活価値の向上に焦点を当てて活動を進めています。

2009年7月より、青森中活協関係者と、子育てサークル「こもも」(注7)が集まり定期的に議論を重ね、子育て世代向けへのサービスについて検討してきました。これまでの議論の中で、子育て世代を取り巻く生活価値の向上には、「中心市街地の魅力の発信と共有」、「子を連れた親の移動に対する、物理的、心理的負担の減少」が重要になってくることが明らかとなりました。

### 2) ツアーの内容・特色

「まちなか子育てツアー(別紙参照)」は、子育て世代のお母さんを対象としたもので、これまで商店街が取り組んできた「逸品お店回り」ツアーを子育て世代のお母さん向けにアレンジしたものです。中心市街地の魅力を発信するとともに、ツアーの企画の過程で、中心市街地関

係者の子育て世代向けサービスに対する認識を高めてもらう狙いがあります。

商店街ツアーの企画・実施にあたって、「中心市街地の魅力の発信と共有」を促進するために、「情報クリッピングシステム」(DNP 提供)と「実空間透視ケータイ」(KDDI 提供)の2つのアプリケーションを、実験的に導入します(別紙参照)。

「情報クリッピングシステム」は、位置情報を自動で取得し、その位置に関連する写真やコメントを表示することができます。ツアーを企画した、まちなかマーケティング市民委員会やこもものメンバーは、その機能を使い、まちなかのお薦めスポット情報(106ヶ所)をマップ上に掲載し、ツアー企画の参考にしました。商店街ツアー時、参加者はKDDIの貸与携帯を持ち、「情報クリッピングシステム」のアプリケーションを起動してツアーに参加します。お薦めスポットに来ると、携帯が振動し、お薦め情報があることを伝えます。この機能は、将来的には、商店街ツアー以外でも使われる予定です。

「実空間透視ケータイ」は、KDDIが研究開発した携帯端末を使った技術で、利用者の立つ現在地の周辺に存在するまちなかのお薦めスポット情報を、携帯端末の画面をかざすだけで表示できるようにしました。技術的には、内蔵されたセンサにより、端末の傾きや方位を検知し、端末を中心とする方向・距離感に適合した表示方法により、写真やアイコンの形で対象を高速に描画します。この機能(アプリケーション)は、直感的に周囲の状況を把握する上で効果的なユーザ・インタフェースと考えられ、今後は様々な局面でのまちあるきや、地理情報と結びついた各種のコンテンツを利用者に知らせる手段として広く活用する可能性が期待されます。

### 3) 今後期待される取り組み

慶應義塾と青森市、青森中活協は今後、このたびの商店街ツアーの来春以降の継続に向けた準備をすると共に、まちなかの子育て世代向けサービス課題の検討、子育て世代向けまちなかマップの作成、「情報クリッピングシステム」や「実空間透視ケータイ」を活用した中心市街地の情報発信などに取り組んでいきます。

さらに慶應義塾は今後、このたびの取り組みで得た成果をもとに、本事業をはじめとして、他のいくつかの自治体等との共同研究や最先端の情報システム・移動体システムの研究を進め、子どもから高齢者までが盛んな交流ができ、自由に移動できる、安心安全で活発なコミュニティを作ることを目指した『コ・モビリティ社会の創成』のための社会基盤の構築に取り組んでいきます。

また、DNP、KDDIは、今回のプロジェクトに参加協力することにより、IT・ネットワークを中心としたソリューションとして、子育て・福祉分野に貢献していきます。

商店街ツアーに関する詳細は別紙資料を併せてご参照下さい。

< 参考 >

「コ・モビリティ社会」とはコミュニティ(地域社会)やコミュニケーション(情報伝達)(共同)などをあらかわす「コ」と、移動(モビリティ)を合わせた造語で、すべての人が自由に安全に移動でき、交流しやすい社会のことです。

本企画は、文部科学省 科学技術振興調整費における「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」(注8)により実施しており、最先端の情報・通信・移動体の技術を活用して、子育て世代と青森中活協関係者(「まちなかマーケティング市民委員会」や「新町商店街青年部」)のコミュニティを形成し、中心市街地の子育て世代に対するサービス創出を支援し、子育て世代を商店街に多く呼びこむことで、コミュニティのつながりを実感できる商店街と、子育て環境の実現を目指すものです。

以上

- (注1) センター長：川嶋弘尚(理工学部教授) 所在地：神奈川県川崎市
- (注2) 慶應義塾大学「コ・モビリティ社会の創成」 <http://co-mobility.com/>  
担当責任者：金子郁容 慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科教授
- (注3) 代表取締役社長 北島 義俊、本社：東京都新宿区
- (注4) 代表取締役社長兼会長 小野寺 正 本社：東京都千代田区
- (注5) 青森県青森市 市長 鹿内博
- (注6) 青森市中心市街地活性化協議会 青森まちなかマーケティング委員会 代表  
工藤 健 小山内 世喜子
- (注7) 子育てオーダーメイド・サポートこもも 代表 橋本歩
- (注8) 文部科学省「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」プログラムは、イノベーションの創出を可能とし、次世代を担う研究者・技術者を育成する機能を備えたシステムを実現することを通じて、10～15年後に新たな産業の芽となる先端技術を確立 するものです。

## (別紙)

### 【ツアー情報】

#### 【1】子育て世代を対象とした商店街ツアー

##### まちなか子育てツアーの概要

##### (1) 主催、協力

主催：青森市中心市街地活性化協議会（まちなかマーケティング市民委員会）

協力：協同組合プランニングネットワーク東北

青森市新町商店街

青森市昭和通り商店街

青森市長島地下駐車場

子育てオーダーメイド・サポートこもも

マーガレット学園

##### (2) 目的

子育て世代のお母さんたちに、まちなかの魅力や楽しみ方を知ってもらうこと。及び、ツアーの企画と実施を通じてまちなかの子育て世代に対応したサービスの改善を図ること。

##### (3) 実施日時

12月4日 11時開始 13時30分終了予定

\* 託児希望の方は10時30分集合

##### (4) 対象者

0歳～6歳の子どもがいらっしゃるお母様。

\* お子様は託児（有料）にてお預かりします。

##### (5) ツアー内容

3つのコースを準備しています。（参加者は1つのコースを選んで参加できます。）

「暮らしの達人 コース」 暮らしに役立つ商品やノウハウを知ることができます。

「脱 育児服コース」 流行のおしゃれなファッションや小物の店を回ります。

「プチセレブコース」 美容やこだわりの食でスペシャルな経験ができます。

\* ツアーは新町商店街を中心に、ツアーによっては昭和通りにも足を運びます。ツアー前半に喫茶店に寄り、最後に参加者みんなで昼食を取ります。

\* 各コースとも青森まちなかマーケティング市民委員会メンバーによるコンダクターが案内します。

\* 各お店の滞在時間は約20分、各コースとも約5店を回ります。お薦めの商品の説明を受けたり、お試しすることが出来ます。なお、お店や商品の説明がメインですので、お買い物は別の機会にお願いします。

\* 最後に次回の参考とするため、簡単な感想を記入いただきます。

( 6 ) 参加料 ( 喫茶代、昼食代込 )

「暮らしの達人 コース」	1,000 円	* 各コースとも喫茶、昼食代込
「脱 育児服コース」	1,000 円	* 車で参加の方は長島地下駐車場が
「プチセレブコース」	1,500 円	4 時間まで無料となります。

( 7 ) 託児への対応

マーガレット学園での託児あり ( 有料 )。申し込み時、応相談。

( 8 ) 申し込みについて

申し込みは既に終了しています。

## 【 2 】情報クリッピングシステム

昨今、地域コミュニティ活性化策の一つとして、「この公園がお勧め」といった生活者のクチコミ情報を共有する SNS ( ソーシャル・ネットワーキング・サービス ) の導入が増えています。こうした地域コミュニティ向け SNS は、パソコンだけでなく携帯電話から利用できるものもありますが、実際にまちなかで付近の情報を投稿・閲覧しようとする、現在の場所などの位置情報を選択する必要があったり、投稿の操作が面倒でなかなか利用してもらえないという問題がありました。そこで、DNP は、携帯電話の GPS 機能を利用して、位置情報と連動したクチコミ情報をメール感覚で手軽に投稿・閲覧できるようにした「情報クリッピングシステム」を開発しています。「情報クリッピングシステム」には、以下 2 つの機能があります。

( 1 ) 投稿機能：携帯アプリを起動して、投稿画面から「こんな所に素敵な公園が！」といったお勧め情報や「ここは人通りが少なくて心配…」といった安全情報など、共有したい情報を写真や位置情報とともに簡単に投稿できます。

( 2 ) 閲覧機能：まちなかで、情報が投稿されている場所に近づくと、告知画面が自動で立ち上がりると同時に、振動で情報があることを知らせてくれます。また、投稿された情報を地図上にマッピングして表示することもできます。

これによって、従来のリアルなコミュニケーションでは、できなかったような新しいコミュニケーションを、現実空間と情報空間を複合した「情報クリッピングシステム」によって実現することができます。

さらに、今回、地図上にクチコミ情報を単にマッピングするだけでなく、自然言語処理技術との融合によって、コミュニティ形成・活性化の促進を目指した機能拡張も行っています。具体的には、DNP が開発したクチコミ分析エンジン「未来見 ( サキミ )」の重要語抽出機能を利用して、投稿されたクチコミの中から、話題のキーワードを自動抽出し、それに関連したメッセージのみをリスト表示したり、特定のキーワード ( 例えば「散歩」) に関連して、どんな話題が盛り上がっているかを表示する機能を搭載しました。またメッセージに対してブログのようにコメント投稿する機能もあり

ます。これによって、特定の場所を起点としたコミュニケーションだけでなく、特定の興味関心を共有する人同士のコミュニケーションを活性化させ、新たな人のつながりや発見を誘発することができるような場（情報コモンズ）を実現することができます。

参考：未来見（サキミ）

<http://www.dnp.co.jp/cio/sakimi/index.html>

### 【実空間透視ケータイの応用】

実空間透視ケータイは、実際に見える外界に（隠れて）存在する様々な事物や人などの情報をその存在位置と結びつけて携帯端末上に表示する直感的なユーザ・インタフェースで、一種の拡張現実感（Augmented Reality）を携帯端末上に実現しています。また、そのコンセプトを各種のコンテンツやサービスと連携させることが可能な情報プラットフォームとして開発したもので、個人の写真アルバムを共有したり、全国の観光・旅行情報を手軽に検索・表示したりするなどの、多彩な利用分野を模索中です。そのような特徴をもつ実空間透視ケータイを地域コミュニティの中で役立てるための要件・課題を探り、今後さらに多くの応用分野で使い易いケータイ・サービスとして発展させる契機として本プロジェクトでの試行をフィードバックして行く予定です。

<http://kazasu.mobi/>

## 【3】まちなかハッピネス調査

### 調査の概要

#### （1）目的

青森市のまちなかは、市全体に活力を提供する核であり、そこには様々な生活の営みやビジネス、行政の取り組みが重なって、「生活価値（暮らす・商う・働く・訪れる・学ぶ...等のハッピネス）」を醸成しております。まちなかハッピネス調査は、まちなかの生活価値とその要因の明示を通じて、多様な関係者の活動の集積と相乗効果を計るための指標や枠組みづくりを目的として実施しました。

#### （2）実施体制

「まちなかで生活をしている人自らが、まちなかの価値を見つけ、価値を高めるための方法を考えて実行し、また新たな価値を生み出す」、そんな未来志向の循環を生み出すために、青森市中心市街地活性化協議会の事業として、まちなかと多様な関わりを持つ人たちによる「青森まちなかマーケティング市民委員会」を発足しました。同委員会では、まちなかハッピネス調査として、「調査1 生活価値の総点検」を行い、抽出された生活価値を整理した上で、「調査2 生活価値の重みづけ」を行い、生活価値の意味づけを行いました。また、専門的なサポートとして、慶應義塾大学コ・モビリティ社会研究センターが支援しました。

### (3) 調査方法・調査結果

#### 調査1 生活価値の総点検

実施期間：2008年3月～5月実施

調査方法：地域の繋がりを介した参加者の呼びかけで行われる茶話会型調査や、まちなか全世帯8872世帯（2008年）へのアンケート調査、及び過去の中心市街地や青森市で行われた各種の調査の再分析を行いました。

調査結果：生活価値に関係する7480件のコメントを抽出し、それらの再分類を通じて、85項目の生活価値に整理しました。

#### 調査2 生活価値の重みづけ

実施期間：2008年11月～2009年1月

調査方法：調査1により具体化された85項目の生活価値について、まちなかの新しいライフスタイル層（マンション住民、全823世帯、2008年）への悉皆調査と、既存のライフスタイル層のサンプリング調査（2000世帯）を実施しました。

調査結果：85項目の生活価値を魅力度とニーズ度の2つの尺度で測り、それぞれの生活価値を、今後、どのように考え、取り扱っていくかの定義付けを行いました。

#### <コ・モビリティプロジェクトに関するお問い合わせ先>

慶應義塾大学 コ・モビリティ社会研究センター 原田

電話：044-580-1571

e-mail：keio@co-mobility.com

#### <商店街ツアーに関するお問い合わせ先>

青森市中心市街地活性化協議会

（協）プランニングネットワーク東北 中橋

電話：017-723-7630

#### <InfoClipに関するお問い合わせ先>

大日本印刷株式会社 研究開発・事業化推進本部 太田

電話：03-5225-8526

ホームページでのお問い合わせ：<https://www.dnp.co.jp/CGI/inquiry/form.cgi>

#### <実空間透視ケータイに関するお問い合わせ先>

KDDI株式会社 技術統括本部ネットワーク技術本部技術戦略部 古川・鈴木

電話：03-6678-0744

**< 青森市の取り組みに関するお問い合わせ先 >**

青森市経済部商店街振興課 伊藤

電話：017-761-4840

**< 本発表に関する報道関係のお問い合わせ先 >**

慶應義塾大学コ・モビリティ社会研究センター 原田

電話：044-580-1571

e-mail: keio@co-mobility.com

大日本印刷株式会社 広報室 久保田

電話：03-5225-8220

ホームページでのお問い合わせ：<https://www.dnp.co.jp/CGI/inquiry/form.cgi>

KDDI 株式会社 広報部 関根

電話：03-6678-0690

青森市経済部商店街振興課 伊藤

電話：017-761-4840

青森市中心市街地活性化協議会

(協)プランニングネットワーク東北 中橋

電話：017-723-7630